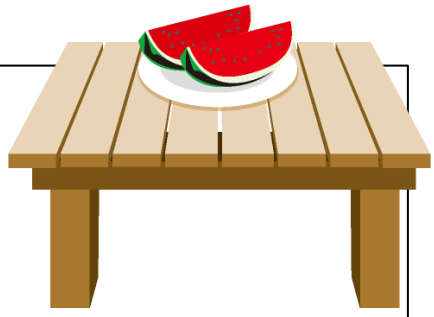
長崎市立大園小学校　校長室だより　Ｎｏ107

8月 今日の一言



８．８．９　校長　渕上　卓也

大園小学校と原子爆弾





長崎は８１回目の祈りの日を迎えました。大園小学校は今年還暦で、原子爆弾が投下された昭和２０年はまだ開校されていませんでしたが、大園小学校の周りには、関わりのある場所があったり、大園小学校自体にもつながりがあったりします。今日の平和集会では、このことを大園っ子に伝えました。

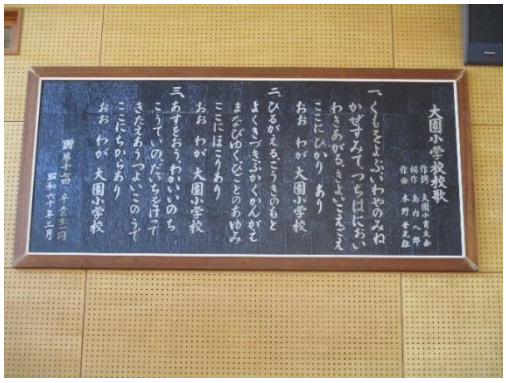
最初に伝えたのが、「道ノ尾駅」とお隣の「滑石太神宮」についてです。

「道ノ尾駅」には、大変な被害を受けた長崎の町から救護列車が運行され、３５００名ほどの負傷者が搬送されたとのことです。浦上で線路は寸断されていて長崎市の中心部までは行けず、今の西町踏切付近で負傷者を乗せて、折り返し搬送したそうです。

また、大園小学校のお隣の「滑石太神宮」は、しばらくの間、「臨時救護所」となり、長崎大学の先生方が、負傷者の治療にあたられました。治療の様子を表した絵があるのですが、こんなにたくさんの人々が、負傷しながらもここまで避難してきたのかと思うと、胸が締め付けられます。

そして、最後に紹介したのが、大園小学校の校歌を作曲してくださった「木野普見雄」さんという方です。原爆投下時、木野さんは 37 歳で、城山町 1 丁目（現在の城栄町）に奥様と幼い娘さん息子さんと暮らしていらっしゃいました。昭和２０年８月９日、勤め先の長崎市役所で原爆に遭い、一晩掛けて自宅に戻られたそうですが、自宅の周りは一面焼け野原で、原爆投下から３日目、３人の遺骨を見付けられたそうです。

木野さんは、１９７０年に原爆症でこの世を去られました。大園小学校の校歌を手掛けてくださる際、きっと平和への願いや思いを込めて作曲されたに違いありません。木野さんの平和への願いや思いを込めて、これからも大園小学校の校歌を、大切に歌い続けていきたいと思います。



＜今日の一句＞

平和への
思い受け継ぐ
大園っ子　　卓也